
 <書 評>

斎藤 宏 (都神経科学総合研究所)・他著

姿勢と動作 (ADL における扱いと手順)

横浜市大リハビリテーション科

大 川 嗣 雄

リハビリテーションの領域において、最も重要な課題のひとつが、日常生活動作 (ADL) である。一方、日常生活動作の概念、その実的な技術等も、リハビリテーション医学の領域から生れ、発展して来たものである。したがって、日常生活動作の評価、指導、訓練等はリハビリテーション医学の正しい知識なしには行えないことは当然である。

しかし現実には、リハビリテーションの専門家である医師・理学療法士・作業療法士だけが、障害者や慢性疾患の患者の日常生活動作に係り合うわけではない。その中でも看護婦・保健婦等は特に大きな係り合いを持っており、持たねばならないことも多い筈である。

その点から、この本は看護婦の方のために書かれたものであるが、著者等は、リハビリテーションのそ

れぞれの分野で活躍されている3人であり、リハビリテーション医学の正しい知識に裏づけられた日常生活動作がのべられており、多くの人達に役立つものと思われる。

この本は、姿勢と動作—ADL における扱いと手順—と題されている。すなわち、患者や障害者の日常生活動作の基本であり、ケアをして行く上でも出発点になる姿勢と動作が中心におかれている。しかも、姿勢と動作の基礎的な問題から、姿勢、体位変換等の日常生活動作の基本、さらに日常生活動作に至る実際が、指導あるいは介助という面から具体的に述べられている。

すなわち、第I章では姿勢と動作についての基礎知識として、筋・神経・骨関節の働きから構造、運動発達の基本的な事柄までが平易に説明されている。第II章と第III章では、

基本の姿勢および、体位変換と移動動作が述べられており、第II章では図で、第III章では図および写真でそれぞれの姿勢や動作が分り易く示されている。特に第III章では指導あるいは介助の際の要点が簡潔にまとめられており、現場での利用には便利であろう。第IV章ではまとめとも言ふべき日常生活動作が、その目的から分類等の考え方から、実際の指導手順まで手際良く整理されている。

いずれにしても、障害者が地域社会の中でケアされねばならないと叫ばれている昨今、その基本とも言ふべき、ADL における扱いと手順について、大変わかり易い本が出来た事は嬉しい。この本が、看護婦、保健婦ばかりでなく、障害者に係り合いを持つ多くの人達に広く利用される事を期待したい。

最後に、障害者が医学的なリハビリテーションの流れの中でどう扱われねばならないかについてもふれて頂きたかったこと、用語に正しい使われ方をしていないものが見られたことは残念であった。

(メヂカルフレンド社刊/B5・
頁212・¥2,200)